



1. 背景と策定の目的

策定の背景

施設の老朽化や、変化する社会情勢、環境の中で、持続的な維持管理を行うため、長寿命修繕計画を策定する必要があります。



今井谷横断歩道橋

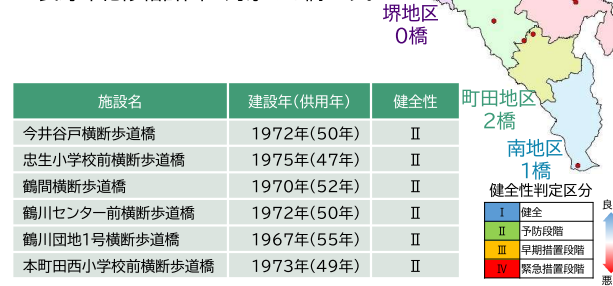
策定の目的

横断歩道橋の現状を正確に把握し、「新技術の活用」等の新たな維持管理の考え方を検討した上で長寿命化修繕計画を策定し、より効率的・効果的な維持管理の実現を図ります。
(計画期間: 2023年~2072年)

2. 横断歩道橋の現状

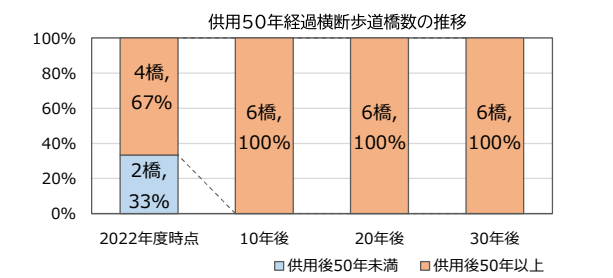
管理施設数

- 長寿命化修繕計画の対象は6橋です。



施設の老朽化

- 2032年には全ての横断歩道橋が供用から50年を超えます。
- 老朽化の急速な進展が予測されることから、修繕・架替えに要する経費が多くなる懸念されています。



施設の劣化状況

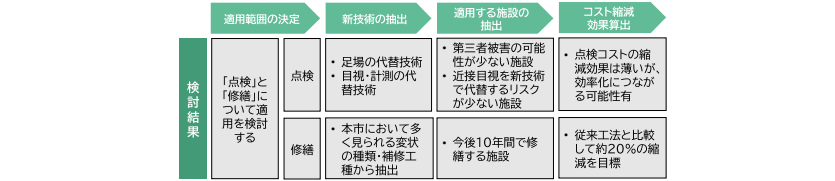
- 鋼構造のため、主な劣化として腐食が生じています。



3. 長寿命化における基本方針

1 新技術等の活用について

- コスト削減や効率化に資する新技術等の適用性を検証し、適用可能な可能性がある横断歩道橋を整理しました。
- 今後新技術等の活用により約20%のコスト削減を目指します。



2 集約化・撤去について

実施方針

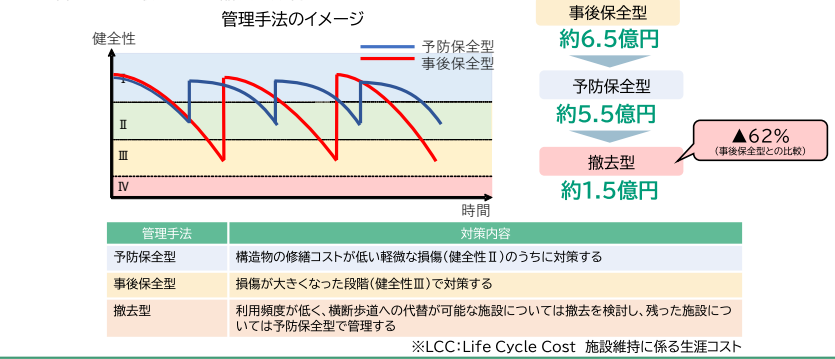
- 社会情勢の変化を踏まえながら、将来に必要なインフラを提供するために、利用者需要との整合性も図りながら、必要性のなくなった施設の集約化・撤去をし、量の適正化を進めることが必要です。
- 撤去候補となる施設の観点を定め、今後撤去に向けた具体的検討を行う施設を選びます。
- 対象の施設は、地域の方や関係機関との協議を行い、健全性が低下した時点で撤去を行う方針とします。

撤去候補となる施設の観点

- 歩行者の交通量が少ない
- 横断歩道橋とは別に横断交差可能な箇所がある
- 通学路に該当していない
- 路下の道路の見通しがよく、道路横断による危険性が大きくない
- 付近に横断歩道橋の利用を想定した施設がない

3 適切な管理手法によるコスト削減効果

- 今後施設の量の適正化を行う「撤去型」の管理を行った場合、50年間のLCC※は1.5億円(0.03億円/年)であり、最もコスト削減が期待されます。



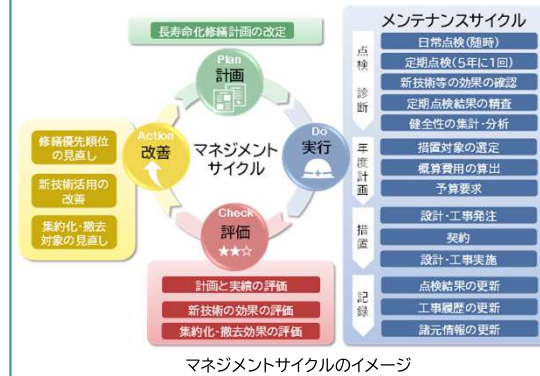
4. 検証事項

以下の基本方針を踏まえ、本計画を推進します。

1 計画全体の方針

計画を見直すマネジメントサイクルの構築及び継続的改善の実施

- マネジメントサイクルを構築し、実施内容を評価することで、実効性を高めます。
- 点検や診断、措置の記録を蓄積し、計画の評価やマネジメントのレビューに活用します。



2 老朽化対策における基本方針

- 定期点検と日常点検により、損傷を早期発見し、措置へと繋げます。

3 費用削減に関する具体的な方針

- 水回りに留意し、排水処理等の止水対策により、劣化の進行を抑制します。
- 効果的な修繕により、横断歩道橋を長寿命化します。
- 利用頻度が低く、横断歩道への代替が可能な歩道橋は、健全性と今後の修繕費を踏まえながら撤去のタイミングを判断し、維持管理費を削減します。

5. ご意見を頂いた学識経験者

本計画の策定にあたり、東京都立大学 都市環境科学研究科 都市基盤環境学域 中村一史准教授にご指導いただきました。